

製品名: MaxiK β ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab13675**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	24kDa

抗原情報

遺伝子名	KCNMB4 KCNMB4; Calcium-activated potassium channel subunit beta-4; BK channel subunit beta-4;
別名	BKbeta4; Hbeta4; Calcium-activated potassium channel; subfamily M subunit beta-4; Charybdotoxin receptor subunit beta-4; K(VCA)beta-4; Maxi K channel sub
遺伝子 ID	27345.0
SwissProt ID	Q86W47
免疫原	抗血清はヒト MaxiKbeta 由来の合成ペプチドに対して作製された。AA 範囲: 70-119

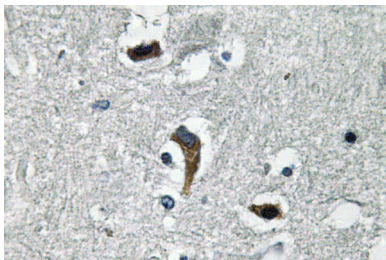
背景

MaxiK チャンネルは、平滑筋の緊張と神経興奮性の制御に不可欠な、コンダクタンス、電圧、カルシウム感受性の大きなカリウムチャンネルです。MaxiK チャンネルは、孔を形成する α サブユニットと調節性 β サブユニットの 2 つのサブユニットから構成されます。この遺伝子によってコードされるタンパク質は、活性化速度を遅くし、カルシウム感受性を高め、 $\beta 1$ サブユニットよりも電流活性化の電圧範囲を負の電位にシフトさせる補助的な β サブユニットです。[RefSeq 提供、2008 年 7 月],ドメイン: カリブドトキシン (CTX) 毒素に対する耐性は、細胞外ドメインによって媒介されます。機能: カルシウム活性化カリウム KCNMA1 (maxiK) チャンネルの調節サブユニット。KCNMA1 のカルシウム感受性とゲーティング速度を調節することで、KCNMA1 チャンネルの多様性に貢献します。KCNMA1 チャンネルのゲーティング速度とカルシウム感受性を低下させますが、不活性化速度は速やかです。低カルシウム濃度では KCNMA1 チャンネルの開口を減少させる可能性があります、高カルシウム濃度ではチャンネルの開口を増加させます。KCNMA1 チャンネルは 100 nM のカリブドトキシン (CTX) 毒素濃度に対して耐性になります。、その他:オカダ酸処理は KCNMA1 への影響を減少させます。、PTM:N-グリコシル化。高度にグリコシル化された形態は KCNMA1 によって促進されます。KCNMA1 との相互作用や細胞内局在には必要ないグリコシル化は、カリブドトキシンに対する防御力を高めます。、PTM:リン酸化。リン酸化は KCNMA1 の活性化速度への影響を調節します。、類似性:KCNMB ファミリーに属します。、サブユニット:KCNMA1 テトラマーと相互作用します。KCNMA1 テトラマーあたり、KCNMB4 分子はおそらく 4 分子存在する。、組織特異性: 主に脳で発現する。脳では、小脳、大脳皮質、延髄、脊髄、後頭極、前頭葉、側頭葉、被殻、扁桃核、尾状核、脳梁、海馬、黒質、視床で発現する。他の組織では、発現が弱い、全く発現しない。、

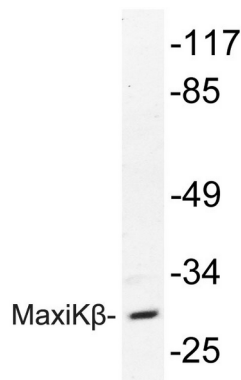
研究分野

血管平滑筋の収縮;

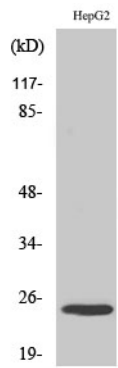
画像データ



パラフィン包埋ヒト脳組織における MaxiK β 抗体の免疫組織化学分析。



MaxiK β 抗体を使用した HepG2 細胞溶解物のウエスタンブロット分析。



MaxiK β ポリクローナル抗体を用いた様々な細胞のウェスタンブロット解析